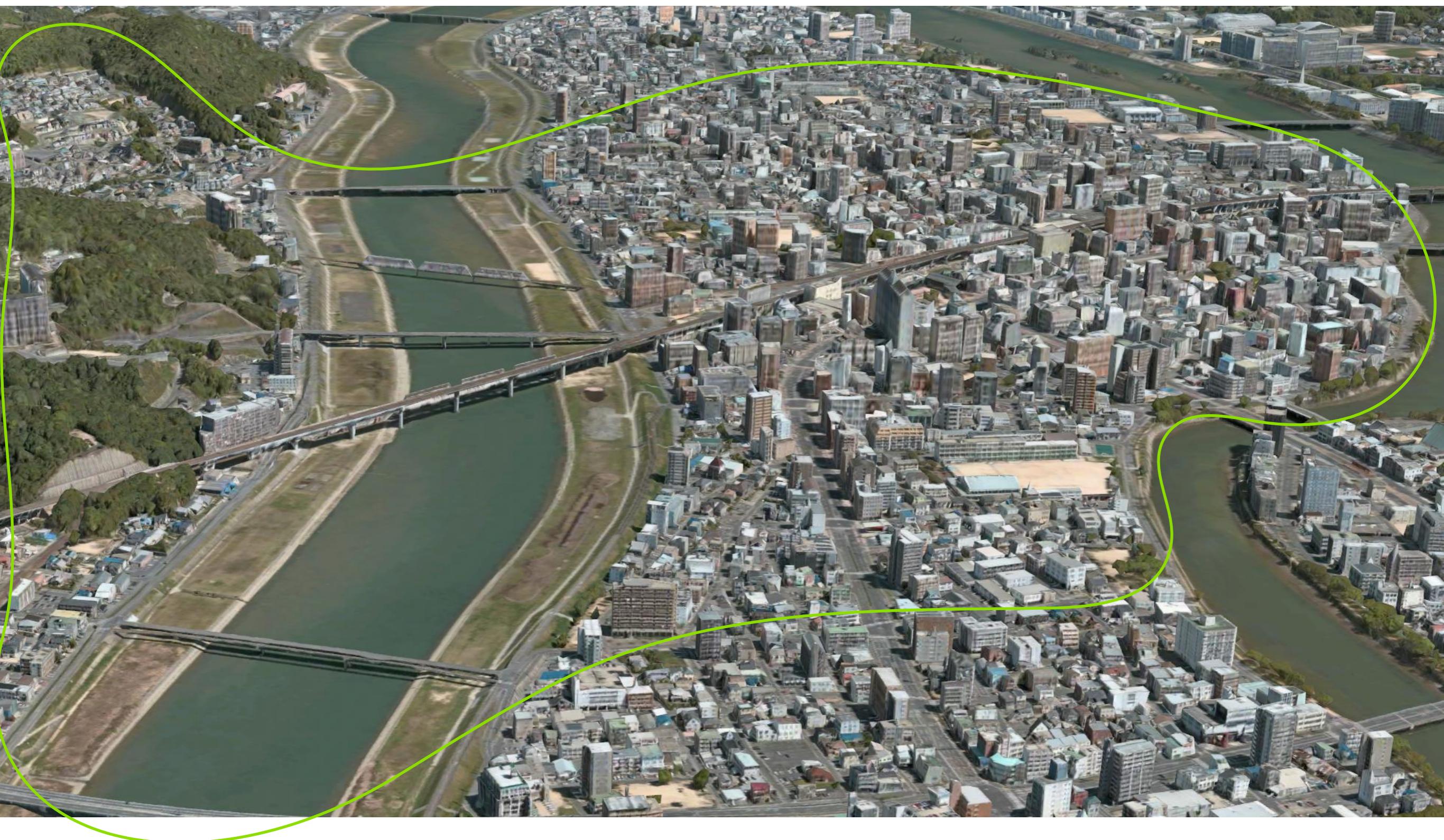


三條地区自主防災会連合会

会長 中江正彦
お手伝い その1 谷川美樹 その2 星野哲郎

防災意識の育成





三篠学区のエリア

楠木町一丁目、三篠町一丁目、三篠町二丁目（ただし、大芝学区分を除く。）
三滝町、打越町、横川町一丁目 横川二丁目、横川町三丁目、横川新町、
中広町三丁目、三滝山、三滝本町一丁目、三滝本町二丁目、竜王町、山手町

山もあって川に挟まれて放水路に守られた地域です。

過去はこんな感じでこの地域は扱わされていました。

この地域の歴史

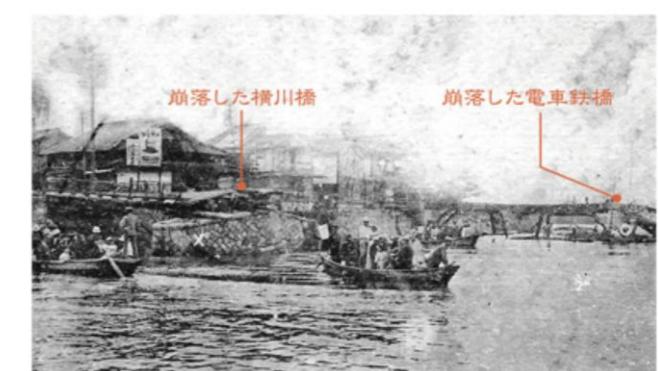
広島城普請では、「城下町の堤防は高く、城下町より上流側の堤防は低くして浸水させ、下流の水量を減らす」との考え方から、別府の荘の本川堤防は低く築かれました。太田川が氾濫するたびに水浸しになり、出所は不明ですがこの地は「さいかちヶ原」とも呼ばれました。

今も本川右岸では、堤防を切り下げた「水越し」の痕跡が確認できます。「打越町」という町名は、浸水して溜まった水が「内」から外（旧福島川、旧山手川）に「越す」という意味を含んでいると考えられます。

そうして近年まで水害に苦しめられた横川。1919年7月5日の芸備新聞には、「三篠新庄橋、横川橋、電車橋が流出し、人家は床下浸水、横川駅の如きは天井下まで浸水。横川は孤立し援助の方法なし」という記事が掲載されています。



たらいを舟にして移動する人の姿も
1919年（大正8年）の水害
広島市公文書館提供



横川橋崩落 1919年（大正8年）の水害
広島市公文書館提供

治水対策による太田川放水路 の工事



太田川放水路工事前の広島 1948年（昭和23年）撮影
被爆50周年 図説戦後広島市史より



太田川放水路工事後の広島 1970年（昭和45年）撮影
被爆50周年 図説戦後広島市史より

治水工事のおかげで放水路より
東側の住民が過去の災害を忘れて
平和ボケしています。

**避難指示が出て
も動かない！**

発想の転換

大人は 動かない 話を聞かない 情報が届かない

子どもは 動く 話を聞いてくれる 情報も届く

子どもが防災の中心にいれば

早めの避難が実行できる！

三條自主防災会ブース
詳しくは
へ

お待ちしております！！